



S.Suzuki

THE AICHI HAI

第61回 農林水産省賞典 愛知杯 (GⅢ)

1 着 2 着 3 着 4 着 5 着
本 賞 38,000,000円 15,000,000円 9,500,000円 5,700,000円 3,800,000円
付加賞 497,000円 142,000円 71,000円



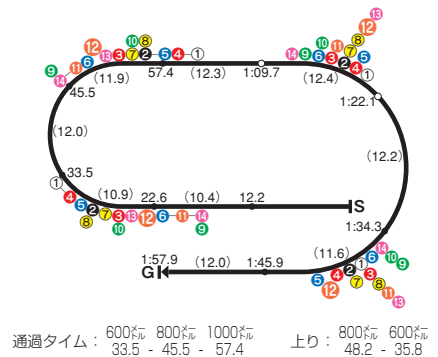
レース映像は
こちらでご覧
いただけます。

牝、4歳以上、2023.1.14以降2024.1.8まで1回以上出走馬、除未出走馬および未勝利馬
負担重量 ハンデキャップ

2024.1.13 小倉 晴・良 芝2000m (国産) (特指)

着順	馬番	馬名	性別	年齢	斤量	騎手	タイム (管差)	コーナー 通過順位	上り (600m)	馬体重 (増減)	単勝 オッズ	調教師	レーティング
1	⑫	ミツキーゴージャス	牝	4	54	川田将雅	1:57.9	10-10-4-2	35.5	450(+2)	2.0①	安田隆行(栗東)	107
2	③	タガノバッション	牝	6	53	菱田裕二	1/2	7-8-9-6	35.4	482(-6)	20.9⑧	武幸四郎(栗東)	102
3	⑤	コスタボニータ	牝	5	55	鮫島克駿	3/4	4-4-4-4	35.7	468(+4)	6.3②	杉山佳明(栗東)	105
4	⑤	アレグロモデラート	牝	5	51	富田 暁	1 3/4	3-3-2-1	36.2	484(-2)	19.3⑥	武井 亮(美浦)	94
5	⑭	デリオスマナ	牝	6	49	藤懸貴志	クビ	13-13-14-12	35.4	468(-4)	93.7⑬	松下武士(栗東)	
6	⑨	フラスダラム	牝	6	54	斎藤 新	1	9-9-4-6	36.1	504(+8)	25.6⑨	松永昌博(栗東)	
7	⑧	ローゼライト	牝	6	53	幸 英明	クビ	4-4-4-6	36.1	460(+4)	19.9⑦	清水久詞(栗東)	
8	⑦	ルージュスティリア	牝	5	54	L.モリス	アタマ	6-6-4-4	36.1	492(+2)	15.9⑤	藤原英昭(栗東)	
9	⑪	セントカメリア	牝	5	54	西村淳也	1	12-12-9-6	36.2	454(+2)	7.2③	高野友和(栗東)	
10	⑩	エリカヴィータ	牝	5	55	佐々木大輔	クビ	7-6-11-12	36.1	460(-2)	40.2⑩	国枝 栄(美浦)	
11	⑨	エニシノウタ	牝	6	51	永島まなみ	クビ	13-13-13-12	36.0	450(-10)	110.4⑭	笹田和秀(栗東)	
12	⑥	ミスフィガロ	牝	6	52	藤岡康太	ハナ	11-10-11-11	36.1	424(-14)	46.7⑪	友道康夫(栗東)	
13	④	ウインビクシス	牝	5	55	松岡正海	8	2-2-2-3	38.0	458(+2)	7.9④	上原博之(美浦)	
14	①	グランスラムアスク	牝	5	53	丸山元気	5	1-1-1-6	39.0	468(+8)	64.5⑫	矢作芳人(栗東)	

単勝②200円(1 1/2倍) 複勝②120円(1 1/2倍) ③310円(6 1/2倍) ④180円(2 1/2倍) 枠連③-⑦530円(1 1/2倍)
馬連③-⑫2,620円(9 1/2倍) ワイド③-⑫780円(6 1/2倍) ②-⑫350円(2 1/2倍) ②-③870円(10 1/2倍)
馬単②-③3,370円(10 1/2倍) 3連複②-③-⑫3,220円(4 1/2倍) 3連単②-③-⑫15,950円(36 1/2倍)



通過タイム : 600m 800m 1000m 上り : 800m 600m
33.5 - 45.5 - 57.4 48.2 - 35.8

アラカルト

- ・川田将雅騎手はアートハウスで制した23年に続く愛知杯2勝目。JRA重賞は本年2勝目、通算132勝目
- ・安田隆行調教師は愛知杯初勝利。JRA重賞は通算59勝目
- ・ミツキーゴージャス産駒はJRA重賞初勝利
- ・4歳馬の勝利は23年アートハウスに続く通算10回目(牝馬限定競走となった04年以降。以下同)
- ・キャリア7戦目での勝利は23年アートハウスに並ぶ本競走の最少キャリアタイでの勝利

ミッキーゴージャス Mikki Gorgeous

牝 黒鹿毛 2020.4.3生
北海道安平町 ノーザンファーム生産
馬主・野田みづき氏 栗東・安田隆行厩舎
馬名意味・冠名+豪華な

ミュージカルウェイFR系 F2-s

ミッキーロケット 鹿毛 2013	キングカメハメハ 鹿毛 2001	Kingmambo マンファスIRE
	マナーキャントバイミラヴIRE 鹿毛 2006	Pivotal Sabreon
	ディープインパクト 鹿毛 2002	サンデーサイレンスUSA ウインドインハーヘアIRE
ミッキークイーン 鹿毛 2012	ミュージカルウェイFR 栗毛 2002	Gold Away Mulika

5代までのインブリード：Mr.Prospector S4×M5 Nureyev S5×S5×M5

INTERVIEW

中川晃征 厩舎長(ノーザンファーム空港)

繁殖としての価値を高める勝利になりました

母ミッキークイーンの騎乗育成も手掛けてきました。その頃の母も小柄な馬でしたが、この馬はそれに輪をかけて馬体が小さく、時間をかけて乗り込んでいきました。デビュー戦を見たときに上のクラスで戦えると思いましたが、ここで重賞を勝ってくれたことは驚きでもありました。牝馬の育成者としては、繁殖としての価値を高める勝利になったのも嬉しかったです。

N.Inaba



課されたウインピクシス、コスタボニータはハイペースで飛ばす逃げ馬を深追いせず、離れた2、4番手を進む。一方、中国馬群の後方寄りにつけたミッキーゴージャスの川田将雅騎手は、向正面半ばから手綱を押して進出を開始。マークするように背後を進んだ3番人気のセントカメリアも、呼応して前に迫っていた。

グランスラムアスクの脚勢は早々に鈍り、縦に長かった隊列は3コーナーで凝縮。スピードに乗り、馬群の外々を回ってポジションを押し上げてきたミッキーゴージャスが、直線入口で先頭に躍り出る。先を越されたコスタボニータが懸命に反撃。中国馬群の内では脚を溜めていたタガノパッションも外へ持ち出して追い込んできたが、最後までしっかり伸びたミッキーゴージャスが2頭の追撃を抑え込み、見事なロングスパートを決めた。

父はミッキーロケット、母は牝馬一冠馬ミッキークイーン。野田みづきオーナーの思い入れがたつぷりと詰まった本馬は昨春、デビュー2連勝を飾ってオークスへ駒を進めた経歴を持つ。このときは壁に跳ね返されて大敗14着を喫したものの、自己条件から再出発して再び上昇気流に乗り、3連勝で初のタイトルを獲得。3月に定年引退を迎える安田隆行調教師、その弟子・川田騎手ともども、陣営にとっては格別に嬉しい1勝となった。

父ミッキーロケット

北海道安平町 ノーザンファーム生産 中央24戦5勝(宝塚記念^{G1}、日経新春杯^{G2}、神戸新聞杯^{G2}2着、中日新聞杯^{G2}2着、有馬記念^{G1}4着、天皇賞(春)^{G1}4着)、19年から供用
〔代表産駒〕ミッキーゴージャス(本馬)、ヴェルトラウム(福島2歳S^O3着)、フラッシングレート(野路菊S^O3着)、ジョウショーループ(クローバー賞^O3着)、タイガーチャージ(戸塚記念3着)

母ミッキークイーン

北海道安平町 ノーザンファーム生産 中央17戦5勝(オークス^{G1}、秋華賞^{G1}、阪神牝馬S^{G2}、忘れな草賞^O、ヴィクトリアマイル^{G1}2着、阪神牝馬S^{G2}2着、ローズS^{G2}2着、クイーンC^{G2}2着、宝塚記念^{G1}3着、エリザベス女王杯^{G1}3着2回)、最優秀3歳牝馬

ミッキーキング(19 牡父ロードカナロア)中央4戦0勝、地方15戦3勝 ④

ミッキーゴージャス 本馬(20 牝父ミッキーロケット)中央7戦5勝(愛知杯^{G2}、修学院S、夕月特別)獲得総賞金87,870,000円

(21 牡父ロードカナロア)

(22 牝父エビファネイア)

(23 牝父エビファネイア)

祖母ミュージカルウェイFR

仏、伊、香、愛、星8勝(ドラル賞・仏^{G2}、ラクーブドメゾンラフィット・仏^{G2}2回、プロニュ賞・仏L、リディアテシオ賞・伊^{G1}3着2回、香港C^{G1}3着、コリダ賞・仏^{G2}3着)、09年輸入、22年死亡

インナーアージ(10 牝父ディープインパクト)中央4勝(サンシャインS)、

レイディヴェーグ ④(エリザベス女王杯^{G1}、ローズS^{G2}2着)、エルバリオ ④(麦秋S、四日市特別)の母

トーセンマタコイヤ(11 牡父ディープインパクト)中央5勝(ウェルカムS、オリエンタル賞、精進湖畔特別、山吹賞)、地方0勝

ミッキークイーン(12 前出)

ルールブリタニア(13 牝父ディープインパクト)中央1勝、エビファニー ④(ケフェウスS^O、ノベンスターS、白井特別)の母

リズムオブラヴ(17 牝父ディープインパクト)中央1勝

ニュージーズ(21 牡父リアルスティール)中央1勝 ④

曾祖母ムリカ Mulika

フランス産 仏0勝、マレーリヴァー Murray River(ノアイユ賞・仏^{G2}3着)の母

期待の良血馬が3連勝で重賞初制覇

京都競馬場のランドオープンと入れ替わるように、昨秋からは阪神競馬場のスタンドリフレッシュ工事がスタート。その影響で変則的な開催日程が組まれた今年、愛知杯は冬の小倉開催の開幕週に実施された。古牝馬重賞のオープニングカードともなる一戦で断然の支持を集めたのは、2、3勝クラス特別を連勝中の新星ミッキーゴージャス。持ち前の良血を開花させてきた4歳馬は背負った期待に応え、さらなる飛躍を予感させる3連勝を飾った。

最内枠を引いたグランスラムアスクが、何が何でもの構えで飛び出して先手を主張。昨年のクイーンSで2、3着を占め、トップハンデタイの55キを

課されたウインピクシス、コスタボニータはハイペースで飛ばす逃げ馬を深追いせず、離れた2、4番手を進む。一方、中国馬群の後方寄りにつけたミッキーゴージャスの川田将雅騎手は、向正面半ばから手綱を押して進出を開始。マークするように背後を進んだ3番人気のセントカメリアも、呼応して前に迫っていた。

グランスラムアスクの脚勢は早々に鈍り、縦に長かった隊列は3コーナーで凝縮。スピードに乗り、馬群の外々を回ってポジションを押し上げてきたミッキーゴージャスが、直線入口で先頭に躍り出る。先を越されたコスタボニータが懸命に反撃。中国馬群の内では脚を溜めていたタガノパッションも外へ持ち出して追い込んできたが、最後までしっかり伸びたミッキーゴージャスが2頭の追撃を抑え込み、見事なロングスパートを決めた。

父はミッキーロケット、母は牝馬一冠馬ミッキークイーン。野田みづきオーナーの思い入れがたつぷりと詰まった本馬は昨春、デビュー2連勝を飾ってオークスへ駒を進めた経歴を持つ。このときは壁に跳ね返されて大敗14着を喫したものの、自己条件から再出発して再び上昇気流に乗り、3連勝で初のタイトルを獲得。3月に定年引退を迎える安田隆行調教師、その弟子・川田騎手ともども、陣営にとっては格別に嬉しい1勝となった。